

2 立体横断施設  
(1) 立体横断施設

整備基準		図面及び立体横断施設の名称又は番号（記号）	設計内容	判定
立体横断施設を設ける場合には、次の整備基準に適合させること。			(立体横断施設) ・ 有 ・ 無	
立体横断施設の通路	有効幅員2m以上		(有効幅員) m	
	平たんな仕上げ			
	滑りにくく、水はけの良い仕上げ		(仕上材)	
	必要に応じて、線状ブロックを敷設		平面図に敷設箇所を記入し、使用するブロックのカタログ等を添付してください。	
立体横断施設の階段	蹴上げ16cm以下、踏面30cm以上、蹴込み2cm以下		(蹴上げ) cm (踏面) cm (蹴込み) cm	
	段を識別しやすい構造		・ 踏面、蹴上げ、段鼻の色を変える。 ・ その他 ( )	
	回り段を設けない		(回り段) ・ 有 ・ 無	
	つまずきにくい構造		・ 蹴込み板を設け、段鼻を突き出さない。 ・ その他 ( )	
	両側に連続した二段の手すりを設置		(手すり) ・ 有 ・ 無	
	平たんな仕上げ			
	滑りにくく、水はけの良い仕上げ		(仕上材)	
	両側には10cm程度の立ち上がり部、柵、その他これに類する工作物の設置		(立ち上がり) ・ 有 ( cm ) ・ 無	
その他の構造	階段の上端及び下端付近及び踊場に点状ブロックを敷設		平面図に敷設箇所を記入し、使用するブロックのカタログ等を添付してください。	
	歩道等の路面から立体横断施設の底部までの高さが2.5m以下である部分への柵の設置			
	十分な明るさの確保（地下横断歩道）			

- (注意) 1 記入方法
- (1) 「図面及び立体横断施設の名称又は番号（記号）」及び「設計内容」の欄に必要な事項を記入してください。
- (2) 「判定」の欄には、整備基準に適合する場合には「○」を、適合しない場合には「×」を、該当する事項がない場合には「／」をそれぞれ記入してください。ただし、判定の欄が「\」になっている場合には、記入の必要はありません。
- 2 用語の説明
- (1) 「立体横断施設」とは、立体横断橋及び地下横断歩道をいいます。
- (2) 「線状ブロック」とは、視覚障害者の誘導を行うために床面に敷設されるブロックその他これに類するものであって、線状の突起が設けられており、かつ、周囲の床面との色の明度の差又は輝度比が大きいこと等により容易に識別できるものをいいます。
- (3) 「点状ブロック」とは、視覚障害者に対し段差の存在等の警告又は注意喚起を行うために床面に敷設されるブロックその他これに類するものであって、点状の突起が設けられており、かつ、周囲の床面との色の明度の差又は輝度比が大きいこと等により容易に識別できるものをいいます。